

アセアン(東アジア諸国連合)ともっともっと連携を

ーマレーシアでの日本アセアン経営者会議で考えるー

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 今週は、先週お話をしたアセアンについてももう少し詳しくお話します。先週もお話したように、私はマレーシアの首都クアラルンプールで10月22日から24日まで開催された「日本アセアン経営者会議」に行かせていただき、そこでアセアンの経営者の方々と綿密にお話をしてきました。その御報告です。
3. 「アセアン」とは「東南アジア諸国連合」のことで、その国々が集まって経済の連携などを進めています。加盟国は10か国で、「シンガポール」、「ブルネイ」、「マレーシア」、「タイ」、「インドネシア」、「フィリピン」、「ベトナム」、「ラオス」、「カンボジア」、「ミャンマー」です。これら10か国のアセアンの国々が国情の違いを乗り越えてアセアン地域の経済を中心とした連携・一体化を進める。経済成長や文化・社会の発展、政治・経済の安定を図る。また、国々間の課題を解決しよう。このような目的でアセアンは設立されました。2億3千万人の人々が暮らす「インドネシア」のように人口が2億人以上の国もありますが、他の9か国の中には「ブルネイ」や「シンガポール」、「ラオス」のように人口が1000万人以下の国もあります。このように、人口をはじめ国土の広さ、民族、言語、政治体制、経済体制の異なる国々がアセアンを構成しています。アセアンは、ヨーロッパのEU(欧州連合)のように通貨統合や政治の緩やかな統合の実現にはまだ至っていません。しかし、アセアン域内での経済の連携は極めて盛んです。一人当たりの国民所得や国内総生産(GDP)が非常に高い国もあります。昨年の統計で一人当たりの国内総生産(GDP)は、「シンガポール」が世界12位で49000米ドル、「ブルネイ」は16位で38000米ドルでした。そして、「マレーシア」は10000米ドル、「タイ」は5000米ドル、「インドネシア」は3500米ドル、「フィリピン」は2300米ドル、「ベトナム」は1300米ドル、「ラオス」は1300米ドル、「カンボジア」は850米ドル、「ミャンマー」は820米ドルでした。このように、一人当たりの国民総生産(GDP)の非常に高い国もあれば、そうでない国もあり、アセアンは多様性に富んでいます。

4. 国名の頭文字を取って CLMV と呼ばれる「カンボジア」・「ラオス」・「ミャンマー」・「ベトナム」の4か国は、ここ数年で急激な経済発展が期待されアセアンの新興国と呼ばれています。今回訪問した「マレーシア」も急激に力をつけて、一人当たりの GDP が 10000 米ドルを超えました。また、「マレーシア」の今年 2012 年 7 月の失業率は 3.1%、今年の第 1 四半期、つまり 4 月から 6 月までの GDP の伸びは 5.4%で経済も堅調のようです。「マレーシア」をはじめアセアンの国々は、日本に対する期待が非常に大きく、日本と経済はもとより様々な面でもっともっと交流したいと希望しています。
5. また、以前にもお話したように、「マレーシア」はルック・イーストという政策をとっていて、ちょうど 30 年たちました。マハティール首相が「東の方を見て国を運営しよう」と提唱したのが、ルック・イースト政策です。東というのは日本ですね。日本をお手本にして国を発展させようという考えで、日本を手本に経済の発展を目指してきました。この「日本アセアン経営者会議」には、マハティール元首相の息子さんが国際貿易産業担当の副大臣としてお見えになりました。息子さんは、日本の上智大学を卒業なさって東京銀行にお勤めになり、そのあと「マレーシア」に帰って政治家として大活躍をなさっている方です。マハティール元首相は自分のお子さんを日本の大学に留学生として出し、また、おそらく仕事も日本でするようにと指示を出されたのだと思います。このようにして日本のことを学んだということで非常に有名な方です。
6. それから、日本に旅行したい・日本人と取引をしたい・日本で仕事をしたい・日本に住みたいという方は、「マレーシア」の方も含めてアセアンには山ほどいます。この会議の中でも議論されたことですが、「フィリピン」や「インドネシア」の方の中には日本の介護の仕事に非常に興味を持たれて、日本で働きたいと思っている方が山ほどいます。また、「マレーシア」は風光明媚で非常に住みやすいところなので、日本から移住して老後の生活をマレーシアで送り、病気になったらマレーシアの病院で治療を受けてくださいというアピールが非常に多くありました。インドネシアからも同様のアピールがありました。
7. 日本国には今、閉塞感が漂っていますが、この閉塞感を打破するために日本はもっともっとアセアンの国々と連携すべきだと私は考えます。EU・アセアン・NAFTA をはじめ多くの国や地域が人とも、お金の連携を進めている中で、日本のように自分の国の人々だけで国家を完結させようと考えて外国人や外国企業を拒む国は珍しいと思います。ですから、これからはもっともっとアセアンの方々との連携を深め、そして交流を深めて、お互いの発展を期したらよいのではないかと思います。皆さんはどのようにお考えになりますか。